



故東京美術學校教授岡田信一郎
叙勲ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク
昭和七年四月十三日
内閣總理大臣犬養毅



内

閣

賞勳局第七〇號 内閣 文部第九号

昭和七年四月十三日 内閣書記官長



内閣書記官



昭和七年四月十三日 内閣書記官

183

昭和七年四月十三日 勅記連済
昭和七年四月十三日 勅記連済

内閣總理大臣

賞勳局總裁

故東京美術學校教授正五位岡田信一郎
儀ハ明治四十年以來東京美術學校
講師、早稲田大學講師、東京美術學
校教授トシテ熱心後進ヲ薰陶セリ同
人ハ建築史ニ對スル蘊蓄極メテ深ク
斯學界ノ權威者トシテ敬仰セラレ又
一面埃及及中世歐羅巴ノ文化史ニ關ス

ル造詣大ナルモノアリ大正ヨリ昭和ニ亘
リテハ我國建築界ノ一新時代ニシテ未
曾有ノ多數ナル大建築物ノ竣工ヲ見
タルハ本邦史上ノ一大事實タルノミナラ
ス實ニ世界ノ記錄的現象ト稱セラル
同人ハ此時代ニ於テ其ノ豊富ナル才能
ヲ徹底的ニ之ニ傾倒シタルモノニシテ建
築ノ量ニ於テ群ヲ抜クハ勿論質ニ
於テ最モ卓越セル業績ヲ貽シタリ
而シテ同人ノ建築技術竝ニ意匠上ノ

特色ハ新材料ヲ巧ニ利用シテ古典主義
ヲ表現セルニアリスクシテ在來ノ洋風
ヲ消化セサル模倣時代ノ建築ヲシテ國
情、風土並新時代ニ適應セル日本の建
築ニマテ發達成功セシメ斯界ニ大轉
機ヲ劃セリ尚一面都市計劃及市街
建築法規ノ基本草案作成ノ事ニ參
與セル等功績顯著ノ者ニ候處本月
四日死去セル趣ニ付此際特ニ同日附ヲ以
テ勲四等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ度
此段允裁ヲ仰ク

改東京美術學校教授正五位岡田信一郎
叙勲四等授瑞寶章

右ハ明治三十九年東京帝國大學
工科大学建築科ヲ卒業シ直ニ警視
廳工師ヲ囑託セラレ次テ日本銀行建
築事務囑託トナリ建築工事ニ從事シ
テ盡瘁スル所アリ、又明治四十年以來
東京美術學校講師トナリ早稻田大
學講師ヲ兼テ建築學教育ニ專念

—文部省—

ヤシカ更ニ大正十二年東京美術學校教
授ニ任セララルヤ益々熱心後進ヲ薰陶シ
今日ニ至ルマテ教育界ニ在ルコト二十有
五年功績頗ル著シキモノアリ

同人ハ夙ニ其學生時代ヨリ天才的能幹
ヲ認メラレ優等ノ成績ヲ以テ大學ヲ出
ツルヤ幾何モナク大阪市公會堂建築
設計ニ際シ斯界ノ先輩大家ニ伍シテ
特ニ指名競技ニ參加セシメラレ遂ニ一等
當選ノ榮冠ヲ贏テ得世人ヲ驚嘆セ

シメタリ、爾來年ト共ニ益々研鑽ヲ積
ミ建築史、建築意匠ニ對スル蘊蓄極メ
テ深ク斯學界ノ權威者トシテ敬仰
セラレ又一面埃及及中世歐羅巴ノ文化
史ニ關スル造詣大ナルモアリ

大正ヨリ昭和ニ至リテハ我國建築界、
一新時代ニシテ未曾有ノ多數ナル大建
築物ノ竣工ヲ見タルハ本邦史上ノ一大
事實タルノミナラス實ニ世界ノ記錄的
現象ト稱セラル、而シテ同人ハ此ノ時代

文部省

ニ於テ其豊富ナル才能ヲ徹底的ニ之
ニ傾倒シタルモノニシテ建築ノ量ニ於テ
群ヲ抜クハ勿論實ニ於テ最モ卓越セル
業績ヲ貽シタリ、彼ノ歌舞伎座東京
府美術館、ニコライ會堂等名作ト稱セ
ラル、モノヲ始メトシ東京太陽生命保險
明治生命保險各本社、銀座伊東屋
鎌倉國賓館、大阪高島屋、青山會館
國民新聞社、赤十字病院、同本社大
修繕、大阪國民會館、東亜同文書院等

ノ大建築及博覽會等ノ一時的建築ニ
ハ何レモ同人獨特ノ創意ヲ窺フヘク其
他商店邸宅等ニ於テモ斬新ニシテ雅
致アル幾多ノ意匠ヲ示シ此等斯界ニ
尊重推賞セラル、コト多大ニシテ現代ニ
範ヲ垂ル、ト共ニ後世永ク時代ヲ代
表スル存在タル一キヲ信ス

往年建築界カ一般藝術界ト等シク
形式主義ヨリ自由主義ヘ、轉向ヲ示
シタル當時、同人カ論文ニ口演ニ新建

文部省

築ノ為ニ奮闘シ我國ニ於ケル同方面ノ
先驅者タリシハ斯界周知ノ事實ニシ
テ學者トシテ没スヘカラサル業績タリ
而シテ同人ノ建築技術茲ニ意匠上ノ
特色トシテ舉クヘキハ構造ノ確實ニ理
論的ナルト共ニ新材料ヲ巧ニ利用シテ
古典主義ヲ表現セルニ在リ、斯クシテ
在來ノ洋風ヲ消化セサル模倣時代ニ
ノ建築ヲシテ國情、風土ニ新時代ニ
適應セル眞乎、日本の建築ニマテ發達

成功セシメ斯界ニ一大轉機ヲ畫セルモ
ノナリ、尚一面都市計劃及市街建築法
規ノ基本草案作成ノ事ニ參與シ有力
ナル献策ヲナシ今日ノ建築界ヲシテ社會
的ニ秩序ト統一マルモノタラシムルニ至レリ
洵ニ同人ハ當代建築界ノ巨匠ニシテ少
壯時代既ニ思想的ニ斯界ヲ超拔シ中
年以後盛ニ傑出セル作物ヲ成シ教職
ニ在リテハ幾多ノ秀才ヲ養成シ學問
技術ヲ以テ國家ニ貢獻シタル所極メテ

文部省

大ナルヲ認ム然ルニ本月四日年齒漸ク
五十ニシテ溘焉卒去シ斯界ノ為ニ痛惜
セラレツ、アリ、庶幾クハ此際敍上ノ功績
ヲ録セラレ特ニ生前ニ溯リ頭書ノ通敍勲
ノ榮ヲ與ヘラレシコトヲ

右謹テ奏ス

昭和七年四月十一日

文部大臣鳩山一郎

履歷書

東京美術學校教授 岡田信一郎

明治十六年十一月二十日生

年	號	月	日	學	業	官	職	賞	罰	等	當	該	官	衙	等
明治卅三年	三月			東京高等師範學校附屬中學校卒業											
全	年	七月		第一高等學校へ入學											
全	卅六年	六月		全校卒業											
全	年	七月		東京帝國大學工科大学へ入學											
全	卅九年	七月	十日	全大學建築科卒業成績優等ニ依リ恩賜賞銀時計拜受											
全	年	全月	三十日	工師ヲ囑託ス年手當金四百八十圓給與											警視廳
全	四十年	一月	十日	月手當金五拾圓給與											全
全	年	五月	一日	依願囑託ヲ解ク											全
東京美術學校															
明治四十年	五月	二日		本校日本建築史 ^{毎週二時} 特別建築意匠 ^{毎週二時} 圖案科生徒製図監督 ^{毎週八時} ヲ囑託シ報酬トシテ一年金六百圓贈付											東京美術學校
全	四十年	三月		日本銀行ヨリ建築事務ヲ囑託サレ全行小樽支店其他ノ設計製図ニ従事ス											
全	年	十一月	三十日	自今報酬一ヶ年金七百圓贈付											東京美術學校
全	四十二年	七月	九日	建築取調 ^{今十月三十一日御} 關ス事務ヲ囑託ス ^{用済ニ付解囑}											臺灣總督府土木部
全	四十四年	一月		私立早稲田大學理工科建築學科ノ講師ヲ囑託サレ後ニ全大學教授ニ任セラル											
全	年	七月	卅一日	日本建築史特別建築意匠 ^{毎週二時} 圖案科製図監督 ^{毎週二時} ヲ囑託シ解キ更ニ實驗製作事業ヲ囑託シ報酬トシテ一年金七百圓贈付											東京美術學校
全	年	十二月		日本銀行囑託事務完了ニ付解囑セラル											

大正元年九月三十日	本校實驗製作事業囑託ヲ解キ更ニ日本建築史特別建築意匠圖案料製図監督ヲ一週十二時囑託シ報酬トシテ一年金七百圓贈付	東京美術學校
三年四月十五日	東京大正博覽會審査官ヲ囑託ス	農商務省
四年七月二日	日本赤十字社ヨリ全社建築設計圖案等調査ヲ囑託サル	
五年三月廿一日	自今報酬一ヶ年金八百五十圓贈付	東京美術學校
九年八月廿三日	自今報酬一ヶ年金千參百九拾五圓贈付(講師報酬改定)	全
十年七月十四日	但八月分全額支給セラル 師範學校中學校高等女學校教員等講習會講師ヲ囑託ス	文部省
十一年三月三日	平和記念東京博覽會審査官ヲ囑託ス	農商務省
大正十二年十月一日	任東京美術學校教授	東京美術學校
全 年全月全日	叙高等官三等	内閣
全 年全月廿五日	九級俸下賜	文部省
全 年全月廿五日	建築科主任ヲ命ス	東京美術學校
全 年十月十日	叙從五位	宮内省
昭和三年十月十六日	昭和三年勅令第百八十八號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與セラル	賞勳局
全 四年七月一日	叙正五位	宮内省
全 七年四月四日	陞叙高等官二等	内閣
全 年全月全日	卒去	

蘇聯校
 四年三月廿五日
 定限七年
 不足
 二年八月半

文 部 省

内閣總理大臣犬養毅殿

故岡田信一郎叙勲、件
右上奏書及進達候也
昭和七年四月十一日

文部大臣鴈山一郎



裏面白紙